２０２０年１０月６日

第３回　白河商工会議所「白河の歴史」研修会

植村美洋

松平定信と渋沢栄一

1　松平定信

（1）福祉政策

①間引きの防止

②赤子養育仕法

初産をのぞき、２人目の子供から七夜過ぎに金２分、１年経過後に金２分の合計１両を支給する制度　→　後に倍額となる

（2）心願

①　天明８年正月２日　**霊巌島吉祥院の歓喜天に「願文」を捧げる**

「自らの命と妻子の命にかけて」「米穀融通」し「下々難儀不仕､安堵静謐」を願う

②同年３月　**鎮国大明神へ願文奉納**

一命にかけて改革の成功を祈願　←　**渋沢栄一が感動して定信ほ尊敬する**

（3）七分積金

町入用・・・地借・店借以上の町人が負担する町の入費

①定式町入用・・・芥取捨銭、自身番入用、木戸番入用、櫓番、町内書役、鳶人足捨銭、鐘役、上水方普請割役、名主役料、御年頭銀など

②臨時町入用・・・纏修理、竜吐水、祭礼費用、番屋修復及畳替、道造り入費諸勧化等

③町入用取調・・・過去五カ年の町入用の平均を見積もる　→　節減高を算定

→　**３万７千両という節減額**　→

このうち**７分（７０％）を積み立てる（２万２千２百両）**

（4）七分積金の活用

①浅草向柳原の馬場と的場の空き地に**「会所」と「籾蔵」**を建設

②会所金貸し付け・・・積立金を低利で町人に貸し付けて運用

③囲い籾・・・江戸の町人５０万人、３０日分の救恤米６万７千５百石余を貯蔵

（5）積金の中止

明治元年６月・・・　新政府の市政裁判所より鎮台府の命令を伝える

↓

明治２年１月・・・積み金再開

↓

明治３年１２月・・・町会所積み金廃止

↓

明治５年５月・・・町会所廃止

↓

2　渋沢栄一の活躍

（1）**営繕会議所**の設立・・・明治５年８月

↓

（2）**東京会議所**の設立・・・明治５年１０月

（3）営繕事業

①道路橋梁等の修築・・・橋梁、道路、溝梁、水道

②**東京府庁舎**の建設

③瓦斯燈（がすとう）・・・明治７年１２月、京橋以南の南銀座煉瓦街に点灯

④教育事業・・・商法講習所　→　東京商業学校　→　東京商科大学　→

一橋大学

（4）福祉事業

養育院の設立・・・・明治５年（１８７２）創設

明治維新後に急増した窮民を収容保護するため　←　ロシア皇太子の来日

設立資金は、営繕会議所の共有金　←　**七分積金**

本郷の加賀藩邸跡（現東京大学）の空長屋　→　上野（現東京芸大）

→　神田　→　本所　→　大塚　〈関東大震災後〉　→　**板橋**

養育院の廃止・・・平成１１年　養育院廃止条例

→　現在は、東京都健康長寿医療センター

渋沢の養育院の運営・・・明治７年から養育院事業に関わる

明治１２年から初代院長となり、亡くなるまで院長として事業の発展に尽力

（4）南湖神社の成立

１９１６年５月１１日・・・**白河町長と有志が渋沢を訪問**　→　大正天皇御大典記念として、**大礼記念楽翁公奉祀表徳会**を組織

→　南湖神社の建立の企画を渋沢に伝える

→　**渋沢は表徳会総裁**を承諾する

７月２９日・・・渋沢、表徳会へ**二千円の寄付**

東京市内の富豪に寄付勧誘を斡旋

８月２３日・・・渋沢、白河を訪れて神社敷地を視察

第三小学校で講演

１９２０年４月１７日・・・表徳会に**一万円の寄付**

５月１０日・・・内務大臣より**南湖神社創立の許可**がおりる

６月６日　・・・**地鎮祭挙行**

１９２１年５月５日　・・・渋沢、立柱祭に出席
１９２２年５月１４日・・・自書の南湖神社神札および社標の書稿を寄贈
６月１２日・・・神体遷座式
６月１３日・・・鎮座式
１９２３年５月１日　・・・県社に昇格

（５）「白河町」の成立
１９２８年１月１８日・・・霊巌寺が国指定史跡となる
１９２９年５月　・・・**楽翁公遺徳顕彰会設立**
松平定信没後百年祭の祭典　←　１８２９年没
１９３１年５月　・・・遺徳顕彰会　→　財団法人へ

「霊巌寺町」が、関東大震災後の区画整理で**「大工町」**に編入されようとした

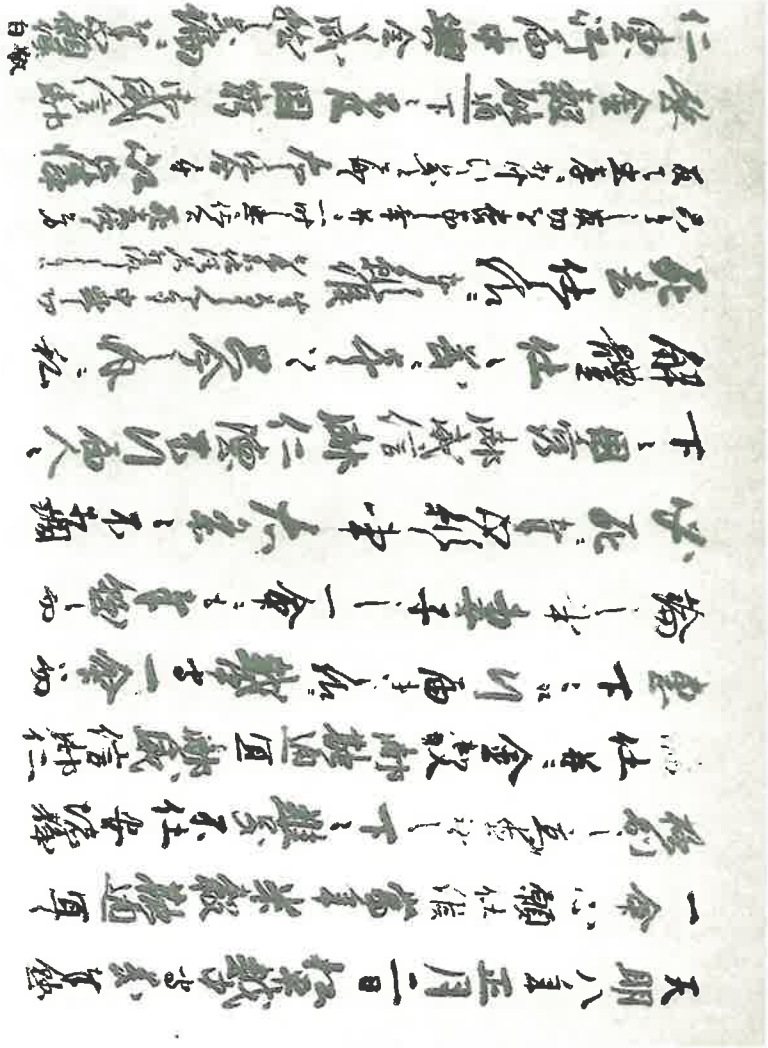
※　１９３１年１１月１１日・・・渋沢栄一死去
１９３２年５月１４日・・・東京市告示１９９号で、霊巌寺町が５月１７日より「白河町」と町名が変更されるとの通知
↓
８月１日　・・・新町名の使用が開始

しければ死すべし。生きてあらん限りは此の如くなるべければ、外にいたづらに勞する事もなきなり。

公が必死の決意を以て執政の重職に就き、一身を神明に捧げて、政治の公正と天下の泰平とを祈られたることは、右の記事によりて明かなり。されどその處すべき境遇は實に艱難を極めたるものなるを以て、公は幾日幾夜不斷の思慮を運らされたることもありたりけん、就職の翌年、世は新春を迎へながら、連年の凶荒に人心慘として痛める時、朔風に駕籠を打たせて、靈巖島吉祥院の歡喜天聖天に、心血を注ぎたる願文を捧げ、切にその加護を祈念せられたり。

靈巖島吉祥院に捧げられたる願文

天明八年正月二日、松平越中守義、奉懸一命心願仕候。當年米穀融通宜く、格別之高直無之、下々難義不仕、安堵靜謐仕、幷に金穀御融通宜、御威信御仁恵下々に行屆き候樣に、越中守一命は勿論之事、妻子之一命にも奉懸候而、必死に奉心願候事。右條々不相調、下々困窮、御威信御仁德不行屆、人々解體仕候義に御座候はゞ、只今之内に私死去仕候樣に奉願候。生ながらへ候ても、中興之功出來不仕、汚名相流し候よりは、只今之英功を發家之幸、幷に一時之忠に仕候へば、死去仕候方、反て忠孝に相叶ひ候義と奉存候。右之仕合に付、以御憐愍、金穀



第八圖　吉祥院歡喜天願文　子爵松本定晴君藏

縦一尺一寸五分横一尺五寸五分の紙本なり、今は掛軸に製せらる。

御神体奉迎行列順序（六月十二日）

『渋沢栄一伝記資料』

各町惣代手提灯　　各委員手提灯

地元高張　　御紋章高張　　巡査（歩）

（白丁）　（白丁）　（白丁）　（白丁）　（白丁）　（白丁）

五色　楽人　　南湖

先駆（警部）＝神職（祓麻）＝工匠＝　楽人＝銘旗＝神社＝御神体＝御宝物＝松平子爵

（車）　（車）　（歩）　**吹流　楽人**　**社掌**　（歩）　（歩）　（車）

（車）

地元高張　　御紋章高張　　巡査（歩）

各町惣代手提灯　　各委員手提灯

総裁　　在京白河　　建設　以下高張

渋沢子爵＝会長＝副会長＝広橋氏＝田中氏＝前川氏＝　　＝　　＝

（車）　（車）　（車）　（車）　（車）　（車）　**人惣代　　委員　行列**